

風景画家 ブライアン・ウィリアムズに学ぶ水辺の写生

2013年8月31日（土）に風景画家のブライアン・ウィリアムズさん（びわ湖トラスト理事）を先生にむかえ休暇村近江八幡において写生会が開催されました。参加者は17組で大人19名、子供19名の皆さんです。びわ湖トラストからはブライアン先生をはじめスタッフ5名がサポートしました。休暇村西館ホールに集合し、10時からのオリエンテーションの後、ブライアン先生のお話がスタートしました。



はじめに琵琶湖の小さな生物が琵琶湖の水をきれいにしていることや多様な生きものが生息する自然を守ることの大切さを話され、30年以上も琵琶湖を描いてこられた先生の琵琶湖への想いが伝わりました。



続いていよいよ水彩画についての講義です。写生に出かける前から画架の組み立ての実演までして頂きました。



ブライアン先生の風景画の実技が始まりました。集合前に描いてこられた下絵を参照しながら最初に空を描き、続いて手前の湖、島、岸辺と色が重ねられ景色が現れてきました。色の濃淡による遠近の表現や水彩画の特徴である色の塗り重ね（wet into wet）による色彩の表現、絵に描く対象を何度もよく観察することの大切さを教えてもらいました。子供さんも一緒に描かせてもらいました。最後に先生が再び手を入れて完成です。



実技が終わり休憩時間になっても今度は大人の方たちからの質問攻めでブライアン先生は大変でした。



休憩後、立命館大学の熊谷先生（びわ湖トラスト理事・事務局長）から約30年前の琵琶湖研究所時代に行われた沖島での漁の様子や住民へのヒアリングによる琵琶湖の水質変化の調査の様相を記録した貴重な映像が紹介されました。



昼食をとってから、参加者は宮ヶ浜の芝生広場へ出て思い思いの場所で写生に取り掛かりました。上右の写真は芝生広場から見た皆さんが写生される琵琶湖の風景です。プライアン先生は一組一組参加者の間を回ってアドバイスをされました。参加者の写生風景を下に紹介します（写っていない人ごめんなさい）。



写生終了後、西館ホールに再集合、出来上がったみんなの作品を展示してブライアン先生から講評を頂きました。16時前に本日の写生会を終了、皆さん帰途につきました。



写生会の行われる週末が近づくにつれ台風の接近と大雨の予報がなされ開催が心配されましたが、前日には台風・大雨の懸念も薄れ予定通りに開催されました。当日は曇り時折陽が射すという天気での芝生公園に出て写生をすることができました。むしろ炎天下でなくて良かったかもしれません。

終了後のアンケートで子供さんからは、「むずかしかった」と答えた一人を除いて回答者全員からまた参加したいとの回答をもらいました。「楽しかった」「もっと絵を描きたい」「また先生に絵を見てもらいたい」との声からも絵をかく楽しさをブライアン先生が引き出してくれたものと思います。

また、保護者の方のアンケート結果ではこの写生会が大好評で、回答者全員の方から他の友人・知人に勧めたいとの回答を頂きました。久方ぶりに絵筆を持って楽しかったこと、親子の触れ合い、コミュニケーションを深める機会であったこと、また琵琶湖の美しさや環境問題に目を向ける機会にもなったこと等コメントして頂きました。ブライアン先生の指導の下に楽しくまた有意義に写生会が終了でき、びわ湖トラストとしてもうれしく思っています。

最後に今回共催者として協賛助成頂いた西日本高速道路エリア・パートナーズ倶楽部に感謝いたします。

(藤田理事 記)